

# 調査結果の概要

## I 発育状態

### 1 身長（表1、図1）

(1) 平成29年度の男子の身長は、7歳、9歳、12歳、13歳、15歳及び16歳で前年度より高くなっている。また、10歳、11歳、14歳及び17歳では、前年度より低くなっている。その他の年齢では、前年度と同じ数値となっている。

女子の身長は、5歳、6歳、8歳、9歳、12歳、14歳、15歳及び17歳で前年度より高くなっている。また、10歳、11歳、13歳及び16歳で前年度より低くなっている。7歳は、前年度と同じ数値となっている。

(2) 平成29年度の身長を親の世代(30年前の昭和62年度の数値)と比較すると、最も差がある年齢は、男子では12歳及び13歳で1.5cm高く、女性では5歳で0.8cm低くなっている。

表1 年齢別 身長の平均値

(cm)

区分	年齢	男子					女子				
		平成29年度 A	平成28年度 B	前年度差 A-B	昭和62年度 C(親の世代)	世代間差 A-C	平成29年度 A	平成28年度 B	前年度差 A-B	昭和62年度 C(親の世代)	世代間差 A-C
幼稚園	5歳	110.6	110.6	-	110.9	△0.3	109.7	109.5	0.2	110.5	△0.8
小学校	6歳	116.8	116.8	-	116.6	0.2	116.1	116.0	0.1	116.8	△0.7
	7歳	123.2	122.8	0.4	122.7	0.5	122.0	122.0	-	121.6	0.4
	8歳	128.4	128.4	-	128.3	0.1	128.3	127.6	0.7	127.9	0.4
	9歳	134.1	134.0	0.1	133.7	0.4	133.9	133.0	0.9	133.9	-
	10歳	139.3	139.8	△0.5	139.3	-	140.4	140.9	△0.5	140.0	0.4
	11歳	145.4	145.8	△0.4	144.2	1.2	146.8	147.2	△0.4	146.9	△0.1
中学校	12歳	153.0	152.9	0.1	151.5	1.5	152.5	152.3	0.2	152.1	0.4
	13歳	160.6	160.5	0.1	159.1	1.5	155.2	155.6	△0.4	155.5	△0.3
	14歳	165.9	166.2	△0.3	164.5	1.4	157.1	156.4	0.7	157.1	-
高等学校	15歳	169.4	168.5	0.9	168.1	1.3	157.5	157.0	0.5	157.6	△0.1
	16歳	170.7	170.3	0.4	169.6	1.1	158.0	158.3	△0.3	158.6	△0.6
	17歳	171.2	171.8	△0.6	171.2	-	158.3	157.6	0.7	158.2	0.1

(注) 年齢は、各年4月1日現在の満年齢である。以下の各表について同じ。

図1 身長の平均値の推移(2-1)

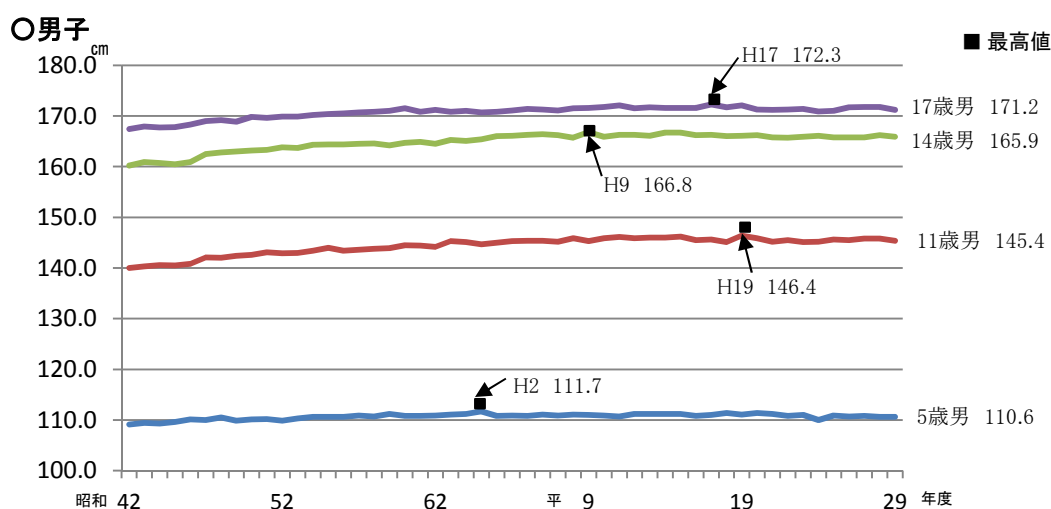
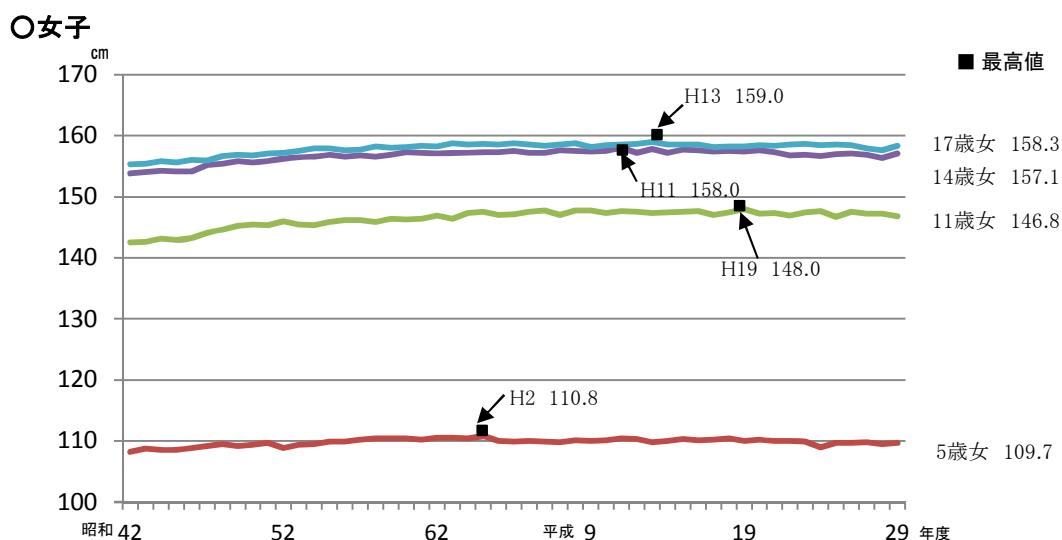


図1 身長の平均値の推移(2-2)



## 2 体重 (表2、図2)

(1) 平成29年度の男子の体重は、5歳、6歳、8歳、9歳、13歳、15歳及び16歳で前年度より増加している。また、10歳、11歳、14歳及び17歳で前年度より減少している。その他の年齢では、前年度と同じ数値となっている。

女子の体重は、5歳、8歳、9歳、12歳、14歳から17歳で前年度より増加している。また、7歳、10歳、11歳及び13歳で前年度より減少している。6歳は、前年度と同じ数値となっている。

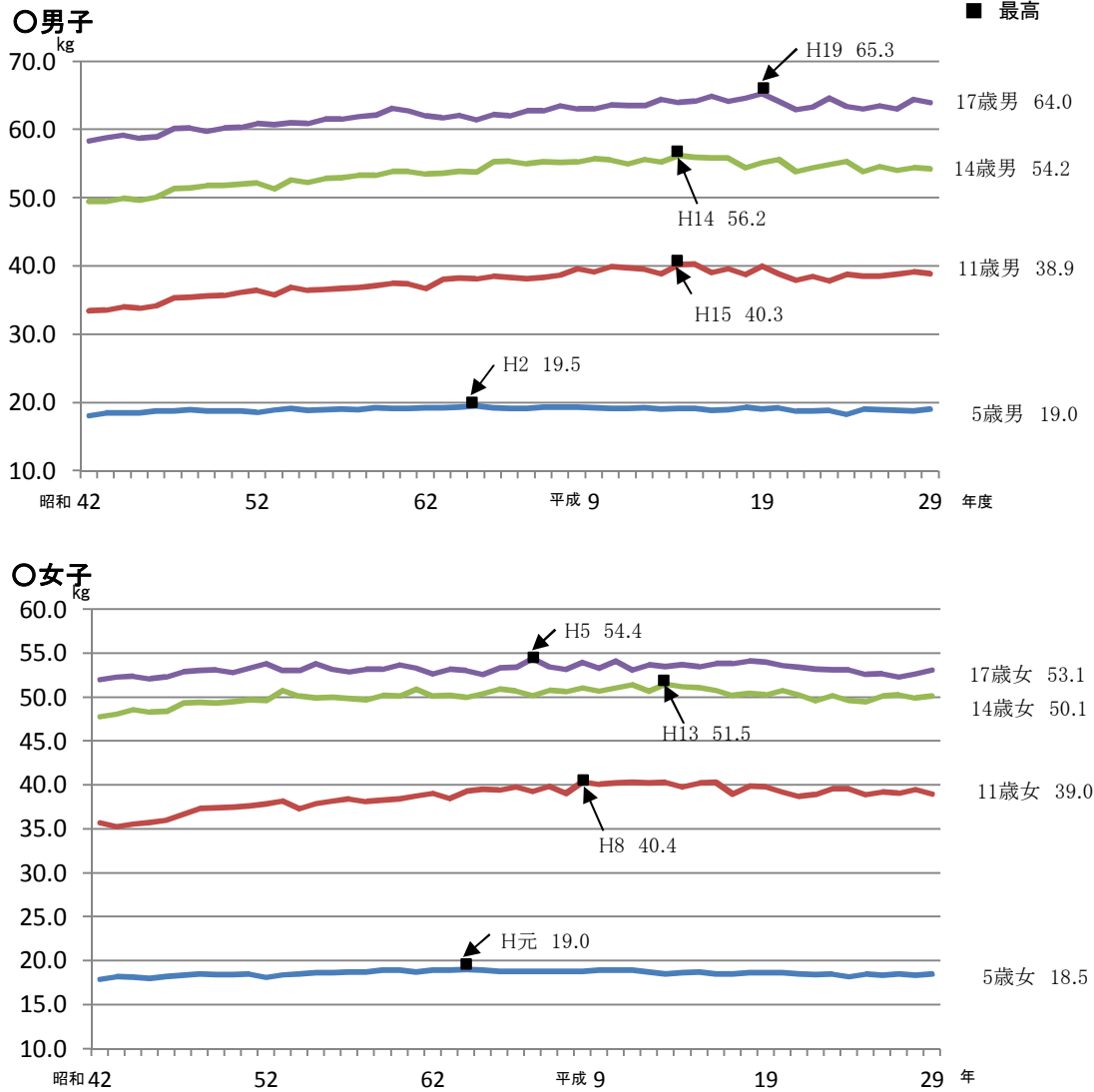
(2) 平成29年度の体重を親の世代(30年前の昭和62年度の数値)と比較すると、最も差がある年齢は、男子では11歳で2.2kg重くなっており、女子では15歳で0.6kg軽くなっている。

表2 年齢別 体重の平均値

(kg)

区分	年齢	男子					女子				
		平成29年度 A	平成28年度 B	前年度差 A-B	昭和62年度 C(親の世代)	世代間差 A-C	平成29年度 A	平成28年度 B	前年度差 A-B	昭和62年度 C(親の世代)	世代間差 A-C
幼稚園	5歳	19.0	18.7	0.3	19.2	△0.2	18.5	18.3	0.2	18.9	△0.4
小学校	6歳	21.6	21.3	0.3	21.3	0.3	21.0	21.0	-	21.2	△0.2
	7歳	24.3	24.3	-	24.0	0.3	23.5	23.6	△0.1	23.2	0.3
	8歳	27.6	27.5	0.1	26.8	0.8	26.8	26.6	0.2	26.5	0.3
	9歳	31.1	30.5	0.6	29.9	1.2	30.1	29.4	0.7	29.9	0.2
	10歳	34.3	34.6	△0.3	34.1	0.2	33.9	34.4	△0.5	33.9	-
	11歳	38.9	39.2	△0.3	36.7	2.2	39.0	39.5	△0.5	39.1	△0.1
中学校	12歳	44.3	44.3	-	42.9	1.4	44.3	44.2	0.1	44.1	0.2
	13歳	49.0	48.8	0.2	48.5	0.5	47.0	47.4	△0.4	47.5	△0.5
	14歳	54.2	54.4	△0.2	53.5	0.7	50.1	49.9	0.2	50.1	-
高等学校	15歳	60.7	59.2	1.5	58.7	2.0	51.8	51.6	0.2	52.4	△0.6
	16歳	61.4	61.1	0.3	60.3	1.1	53.1	53.0	0.1	53.1	-
	17歳	64.0	64.4	△0.4	62.0	2.0	53.1	52.7	0.4	52.7	0.4

図2 体重の平均値の推移



3 平均体格 (表3、図3、別表1)

平成29年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長及び体重の平均値を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

表3 体格の平均値と男女差

区分	年齢	身長 (cm)			体重 (kg)		
		男子 A	女子 B	差 A-B	男子 A	女子 B	差 A-B
幼稚園	5歳	110.6	109.7	0.9	19.0	18.5	0.5
	6歳	116.8	116.1	0.7	21.6	21.0	0.6
小学校	7歳	123.2	122.0	1.2	24.3	23.5	0.8
	8歳	128.4	128.3	0.1	27.6	26.8	0.8
	9歳	134.1	133.9	0.2	31.1	30.1	1.0
	10歳	139.3	140.4	△1.1	34.3	33.9	0.4
	11歳	145.4	146.8	△1.4	38.9	39.0	△0.1
中学校	12歳	153.0	152.5	0.5	44.3	44.3	-
	13歳	160.6	155.2	5.4	49.0	47.0	2.0
	14歳	165.9	157.1	8.8	54.2	50.1	4.1
高等学校	15歳	169.4	157.5	11.9	60.7	51.8	8.9
	16歳	170.7	158.0	12.7	61.4	53.1	8.3
	17歳	171.2	158.3	12.9	64.0	53.1	10.9

(1) 各年齢間の体格差

① 身長

男子は、11歳と12歳及び12歳と13歳の間が7.6cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.5cmと最も小さい。女子は、9歳と10歳の間が6.5cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.3cmと最も小さい。

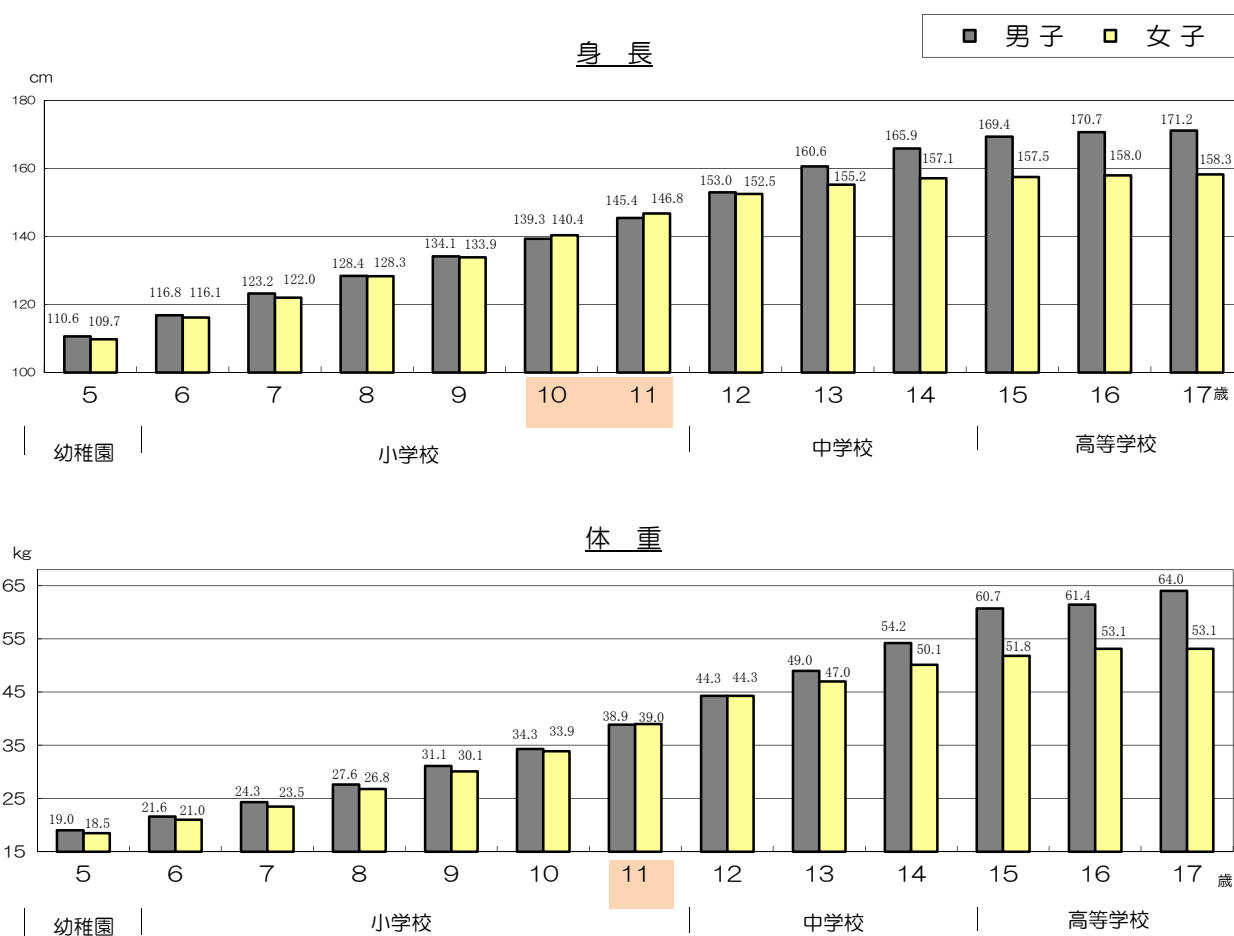
② 体重

男子は、14歳と15歳の間が6.5kgと最も大きく、15歳と16歳の間が0.7kgと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が5.1kgと最も大きく、16歳と17歳が同じ数値となっており、この間は差がない。

(2) 男女の体格差

女子が男子を上回る発育年齢は、身長では10歳から11歳、体重では11歳で、その差の最大は、身長では11歳の1.4cm、体重では11歳の0.1kgとなっている。身長は11歳、体重は12歳を過ぎると男子が女子を上回り、17歳での差は、身長12.9cm、体重10.9kgとなっている。

図3 年齢別平均体格



#### 4 世代間比較 30年前(昭和62年度)の体格との比較 (表4、別表2)

子世代(平成29年度)と親の世代(30年前の昭和62年度)の体格を比較してみると、男子は6歳から9歳までと11歳から16歳までの身長、6歳から17歳までの体重、女子は、7歳、8歳と10歳、12歳及び17歳の身長、7歳から9歳までと12歳及び17歳の体重が増加している。

##### (1) 17歳(高校3年生)の体格の比較

17歳の体格を比較すると、30年前に比べて男子は身長が変わらず、体重が2.0kg重くなっている。女子は身長が0.1cm高く、体重が0.4kg重くなっている。

##### (2) 体格差の最も大きい年齢

30年前と比べ最も差の大きい年齢は、男子は身長が12歳及び13歳で1.5cm高く、体重が11歳で2.2kg重くなっている。女子は身長が5歳で0.8cm低く、体重が15歳で0.6kg軽くなっている。

表4 30年前の体格との比較

区 分			身 長 (cm)			体 重 (kg)			
			平成 29年度 A	昭 和 62年度 B	差 A-B	平成 29年度 A	昭 和 62年度 B	差 A-B	
男 子	幼 稚 園	5歳	110.6	110.9	△0.3	19.0	19.2	△0.2	
		6歳	116.8	116.6	0.2	21.6	21.3	0.3	
	小 学 校	7歳	123.2	122.7	0.5	24.3	24.0	0.3	
		8歳	128.4	128.3	0.1	27.6	26.8	0.8	
		9歳	134.1	133.7	0.4	31.1	29.9	1.2	
		10歳	139.3	139.3	-	34.3	34.1	0.2	
		11歳	145.4	144.2	1.2	38.9	36.7	2.2	
	中 学 校	12歳	153.0	151.5	1.5	44.3	42.9	1.4	
		13歳	160.6	159.1	1.5	49.0	48.5	0.5	
		14歳	165.9	164.5	1.4	54.2	53.5	0.7	
	高 等 学 校	15歳	169.4	168.1	1.3	60.7	58.7	2.0	
		16歳	170.7	169.6	1.1	61.4	60.3	1.1	
		17歳	171.2	171.2	-	64.0	62.0	2.0	
	女 子	幼 稚 園	5歳	109.7	110.5	△0.8	18.5	18.9	△0.4
			6歳	116.1	116.8	△0.7	21.0	21.2	△0.2
		小 学 校	7歳	122.0	121.6	0.4	23.5	23.2	0.3
			8歳	128.3	127.9	0.4	26.8	26.5	0.3
9歳			133.9	133.9	-	30.1	29.9	0.2	
10歳			140.4	140.0	0.4	33.9	33.9	-	
11歳			146.8	146.9	△0.1	39.0	39.1	△0.1	
中 学 校		12歳	152.5	152.1	0.4	44.3	44.1	0.2	
		13歳	155.2	155.5	△0.3	47.0	47.5	△0.5	
		14歳	157.1	157.1	-	50.1	50.1	-	
高 等 学 校		15歳	157.5	157.6	△0.1	51.8	52.4	△0.6	
		16歳	158.0	158.6	△0.6	53.1	53.1	-	
		17歳	158.3	158.2	0.1	53.1	52.7	0.4	

#### 5 発育量の世代間比較 30年前(昭和62年度)との比較 (表5、図4、別表5)

5歳から17歳まで12年間の総発育量と年間発育量の最も大きい年齢について、子世代(今年度調査の17歳(平成11年度生まれ))と親世代(30年前調査の17歳(昭和44年度生まれ))を比較すると、次のとおりである。

##### (1) 総発育量の比較

今年度17歳(平成11年度生まれ)の総発育量を30年前と比較すると、身長では男子は0.9cm減、女子は0.7cm減となっている。体重では男子は1.8kg増、女子は0.3kg増となっている。

##### (2) 年間発育量の最も大きい年齢

今年度17歳(平成11年度生まれ)の年間発育量をみると、男子は、身長・体重で11歳時が最も大きく、女子は、身長・体重で10歳時が最も大きい。

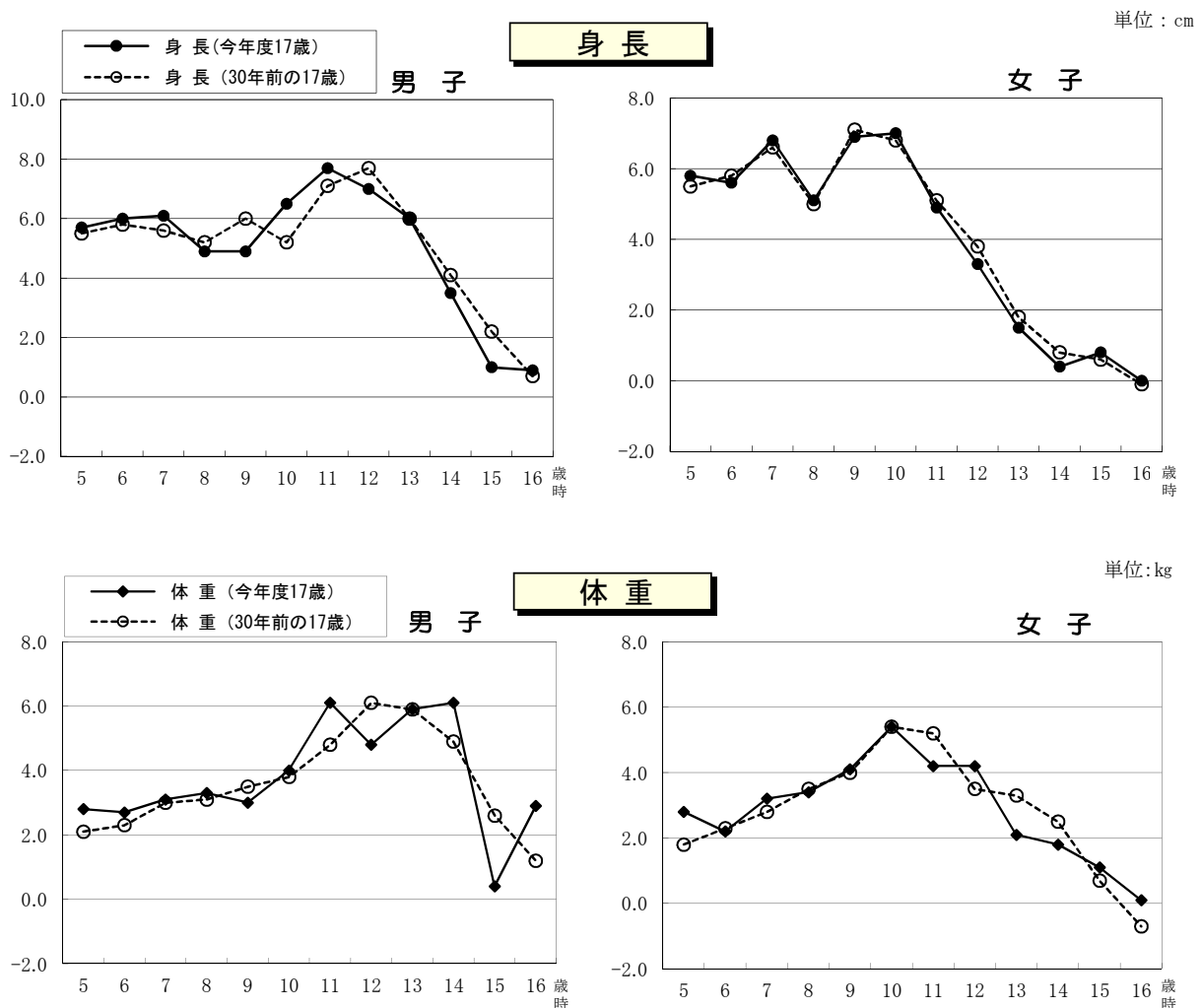
一方、30年前の17歳(昭和44年度生まれ)の年間発育量は、男子は身長・体重で12歳時が最も大きく、女子は身長は9歳時、体重は10歳時が最も大きい。

表5 年次別、男女別、発育量の比較

区 分		男 子				女 子			
		5歳時の 体格	17歳時の 体格	総 発育量	年間発育量 最大の年齢	5歳時の 体格	17歳時の 体格	総 発育量	年間発育量 最大の年齢
身長 (cm)	昭和 44 年度生まれ	110.1	171.2	61.1	12歳時	109.4	158.2	48.8	9歳時
	54	110.8	171.6	60.8	11歳時	110.4	158.1	47.7	10歳時
	元	110.9	172.1	61.2	11歳時	109.8	158.2	48.4	9歳時
	6	111.2	170.9	59.7	11歳時	110.3	158.4	48.1	9歳時
	平成 11	111.0	171.2	60.2	11歳時	110.2	158.3	48.1	10歳時
体重 (kg)	昭和 44 年度生まれ	18.7	62.0	43.3	12歳時	18.4	52.7	34.3	10歳時
	54	19.1	63.0	43.9	11歳時	18.9	53.3	34.4	10歳時、11歳時
	元	19.3	65.3	46.0	11歳時	18.8	54.0	35.2	11歳時
	6	19.2	63.4	44.2	11歳時	18.7	53.1	34.4	10歳時
	平成 11	18.9	64.0	45.1	11歳、14歳時	18.5	53.1	34.6	10歳時

- (注)1 総発育量とは、例えば、平成11年度生まれ(平成29年度17歳)の総発育量は、平成11年度生まれの「17歳時の体格」から「5歳時の体格」を引いたものである。  
 2 年間発育量とは、例えば、平成11年度生まれ(平成29年度17歳)の「5歳時」の年間発育量は、平成18年度調査6歳の者の体格から17年度調査5歳の者の体格を引いた数値である。  
 3 出生年度については、例えば、「平成11年度生まれ」とは、平成11年4月2日から翌年4月1日までに生まれた者をいう。

図4 年間発育量の30年前との比較



(注) 年間発育量とは、例えば、平成11年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成18年度調査6歳の者の体格から17年度調査5歳の者の体格を引いたものである。

## II 健康状態

### 1 疾病・異常の被患率等別状況(表6、別表3)

疾病・異常を被患率等別にみると、幼稚園及び小学校においては「むし歯(う歯)」の者の割合が最も多く、小学校では、次いで「裸眼視力1.0未満」の順となっている。

中学校、高等学校においては、「裸眼視力1.0未満」が最も多く、次いで「むし歯(う歯)」の順となっている。

表6 主な疾病・異常被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	むし歯(う歯)	26.4	むし歯(う歯)	45.3	裸眼視力1.0未満	61.6	裸眼視力1.0未満	71.7
2	裸眼視力1.0未満	12.9	裸眼視力1.0未満	32.2	むし歯(う歯)	41.0	むし歯(う歯)	48.2
3	歯垢の状態	4.4	鼻・副鼻腔疾患	9.1	鼻・副鼻腔疾患	9.2	歯肉の状態	6.6
4	歯列・咬合	2.3	歯・口腔のその他の疾病・異常	5.2	歯垢の状態	4.9	歯垢の状態	5.9
5	その他の疾病・異常	1.9	歯垢の状態	4.6	心電図異常	4.6	心電図異常	3.2

(注) 1「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石、癒合歯、要注意乳歯等のある者等である。

2「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。

3「その他の疾病・異常」とは、この調査のいずれの調査項目にも該当しない疾病及び異常の者である。

### 2 主な疾病・異常等の推移(別表3・4)

#### (1) 栄養状態

平成29年度の栄養状態について「学校医から栄養不良又は肥満傾向で特に注意を要すると判定された者」の割合は、幼稚園が0.2%、小学校が0.7%、中学校が0.5%、高等学校が0.3%となっており、前年度と比べると、幼稚園、小学校及び高等学校では減少しているが、中学校では増加している。

#### (2) 鼻・副鼻腔疾患

平成29年度の「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症、アレルギー性鼻炎(花粉症等)等)の者の割合は、幼稚園が0.2%、小学校が9.1%、中学校が9.2%、高等学校が2.6%となっており、前年度と比べると、幼稚園及び小学校では減少しているが、中学校では増加している。また、高等学校では前年度と変わらなかった。

#### (3) 心電図異常(6歳、12歳及び15歳時のみ)

平成29年度の「心電図異常」の割合は、小学校(6歳)で2.3%、中学校(12歳)で4.6%、高等学校(15歳)で3.2%となっており、前年度と比べると、各調査段階において増加している。

#### (4) ぜん息

平成29年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園が0.7%、小学校が1.7%、中学校が1.4%、高等学校が0.9%となっており、前年度と比べると、幼稚園、小学校及び高等学校では減少している。また、中学校では前年度と変わらなかった。

#### (5) むし歯(う歯) (表7、表8、図5)

平成29年度の「むし歯」の者の割合(処置完了者を含む。以下同じ。)は、幼稚園が26.4%、小学校が45.3%、中学校が41.0%、高等学校が48.2%で、前年度と比べると、各学校段階において減少している。

平成29年度の被患率を10年前の平成19年度と比べると、幼稚園で25.9ポイント、小学校で22.1ポイント、中学校で23.0ポイント、高等学校で25.2ポイント低下している。

中学校1年生(12歳)のみを調査対象としている永久歯の1人当たりの平均むし歯等数(喪失歯及び処置歯数を含む)は1.0本で、前年度と比べると、0.1本減少している。

表7 むし歯(う歯)の処置完了状況等の推移

単位:%

区 分		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
幼稚園	計	52.3	45.8	48.5	x	38.2	35.9	32.4	28.1	23.0	29.4	26.4
	処置完了者	20.4	17.8	17.2	x	12.7	13.2	8.9	11.4	6.8	9.4	7.2
	未処置歯のある者	31.9	28.0	31.3	x	25.5	22.8	23.4	16.8	16.2	20.0	19.2
小学校	計	67.4	66.0	66.0	61.3	62.9	57.5	54.1	51.9	48.2	49.0	45.3
	処置完了者	30.0	29.0	29.8	26.3	27.0	25.4	23.8	22.0	21.2	21.8	20.5
	未処置歯のある者	37.5	37.0	36.2	34.9	35.9	32.1	30.4	29.9	27.0	27.2	24.9
中学校	計	64.0	64.6	58.8	55.7	58.5	52.8	52.4	49.6	44.9	43.2	41.0
	処置完了者	34.1	37.5	33.7	30.0	32.2	28.0	27.3	26.8	23.6	25.5	23.8
	未処置歯のある者	29.9	27.1	25.2	25.8	26.3	24.7	25.0	22.8	21.2	17.7	17.2
高等学校	計	73.4	72.6	69.1	62.2	62.1	57.1	59.4	53.0	56.0	55.0	48.2
	処置完了者	41.7	38.8	37.3	34.2	35.8	29.8	34.9	29.4	32.8	33.5	32.3
	未処置歯のある者	31.7	33.8	31.8	28.0	26.3	27.3	24.5	23.6	23.2	21.5	15.9

(注)1 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

2 [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者が100人(5歳は50人)未満又は回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

3 平成19年度から小数第1位までの表記となった。

表8 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯(う歯)等数

(本)

区 分		昭和62年度	平成9年度	平成19年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計		5.56	3.76	2.0	1.3	1.3	1.1	1.1	1.0
喪失歯数		0.02	0.03	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
むし歯(う歯)	計	5.54	3.73	2.0	1.3	1.3	1.1	1.1	1.0
	処置歯数	3.89	2.88	1.3	0.8	0.8	0.6	0.7	0.7
	未処置歯数	1.65	0.85	0.7	0.5	0.5	0.4	0.3	0.3

(7) 裸眼視力(表9、図6)

平成29年度の「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、幼稚園が12.9%、小学校が32.2%、中学校が61.6%、高等学校が71.7%となっており、前年度と比較すると、小学校においては減少しているが、中学校及び高等学校においては増加している。

また、平成29年度の被患率を10年前の平成19年度と比べると、幼稚園で2.4ポイント減少しているが、小学校で3.0ポイント、中学校で2.7ポイント、高等学校で10.7ポイント上昇している。

表9 裸眼視力1.0未満の者の割合の推移

単位:%

区 分		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
幼稚園	計	15.3	11.7	x	x	x	x	x	x	x	x	12.9
	1.0未満0.7以上	10.8	8.6	x	x	x	x	x	x	x	x	11.2
	0.7未満0.3以上	4.2	2.4	x	x	x	x	x	x	x	x	1.7
	0.3未満	0.3	0.6	x	x	x	x	x	x	x	x	-
小学校	計	29.2	32.4	31.0	31.7	31.7	31.0	31.5	30.0	32.5	33.8	32.2
	1.0未満0.7以上	9.7	11.7	9.3	10.1	10.8	10.0	10.5	9.7	10.4	10.7	9.7
	0.7未満0.3以上	12.5	12.9	11.9	11.9	12.1	12.1	12.8	12.0	13.0	12.6	12.5
	0.3未満	7.0	7.8	9.8	9.8	8.9	8.9	8.3	8.3	9.1	10.6	10.0
中学校	計	58.9	57.5	59.0	61.3	60.7	56.5	58.6	58.9	58.1	60.9	61.6
	1.0未満0.7以上	10.5	10.7	10.1	11.5	11.0	8.0	10.2	10.2	9.9	9.8	8.5
	0.7未満0.3以上	22.2	18.3	21.5	19.9	18.4	16.6	18.1	19.7	16.2	21.6	18.3
	0.3未満	26.2	28.4	27.5	29.9	31.2	31.8	30.4	29.0	31.9	29.4	34.9
高等学校	計	61.0	65.3	68.9	x	74.4	x	x	71.7	65.8	70.0	71.7
	1.0未満0.7以上	8.0	9.6	9.5	x	9.4	x	x	7.9	7.0	9.2	10.8
	0.7未満0.3以上	14.6	17.1	15.2	x	12.9	x	x	13.6	14.2	18.2	19.0
	0.3未満	38.5	38.6	44.2	x	52.1	x	x	50.2	44.5	42.7	41.9

(注)1 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

2 [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

3 平成19年度から小数第1位までの表記となった。



図5 むし歯(う歯)の者の割合の推移

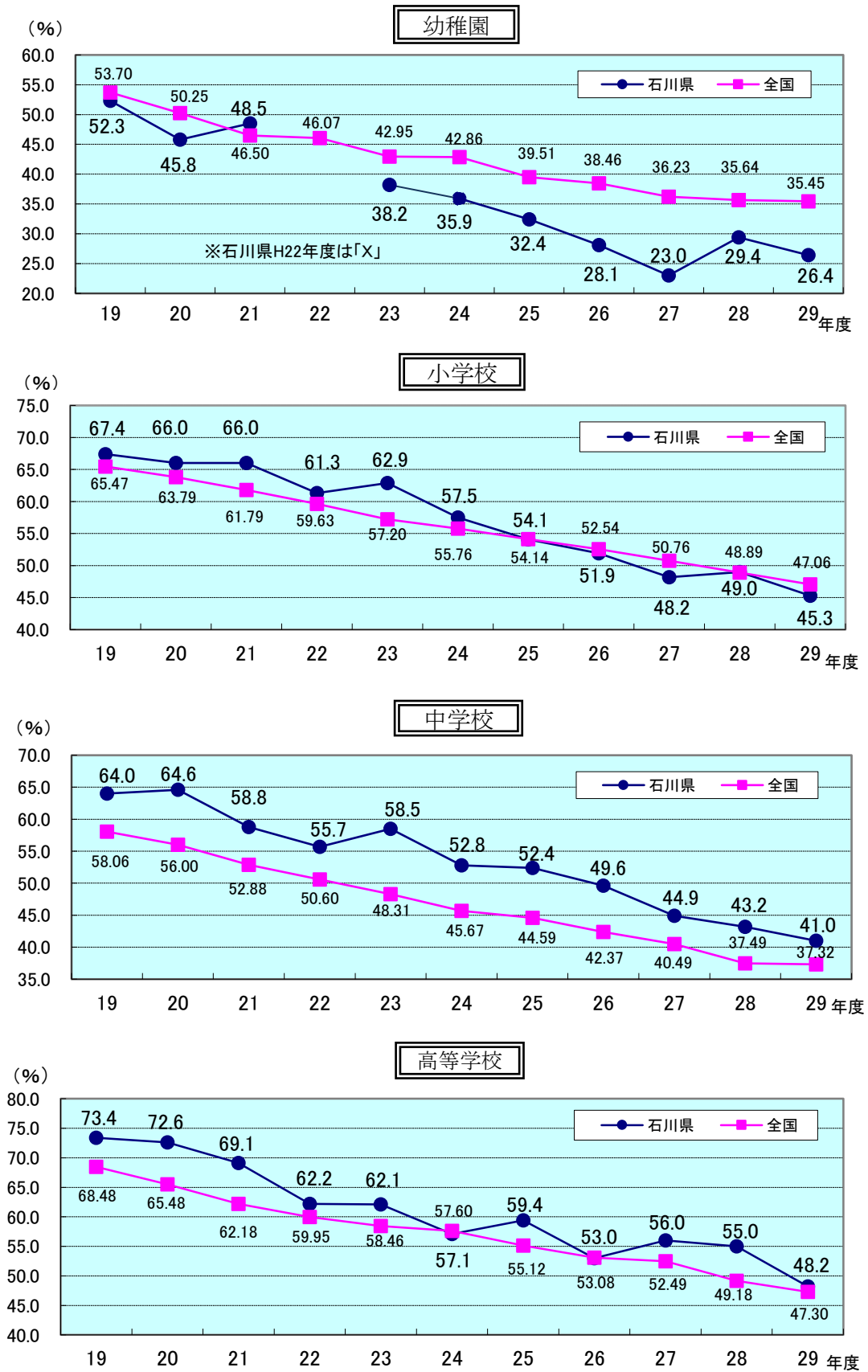
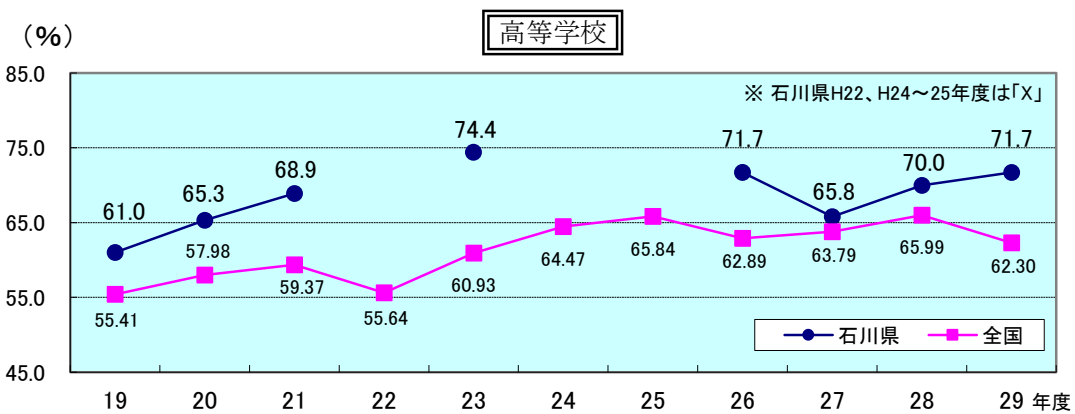
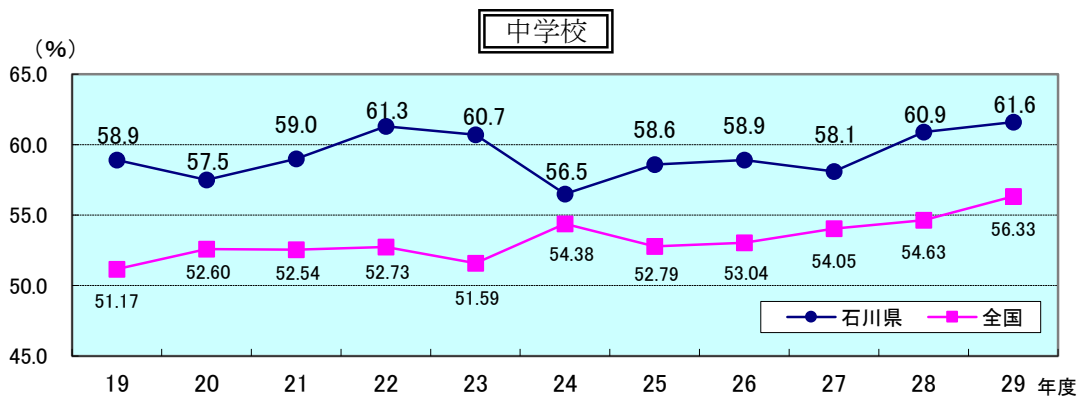
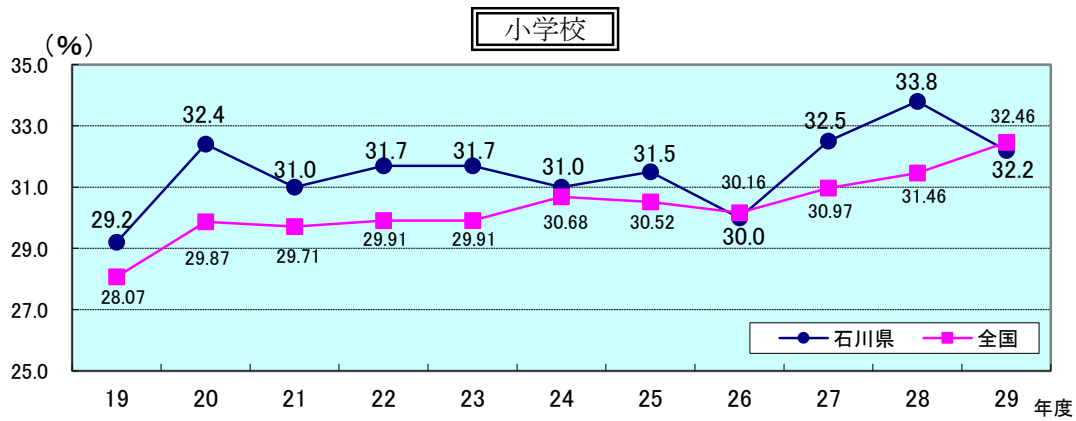
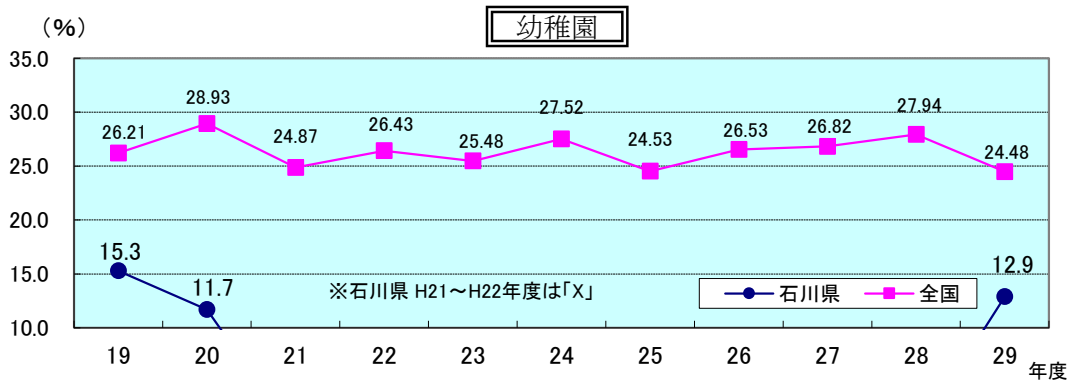


図6 裸眼視力1.0未満の者の推移



### Ⅲ 全国値との比較

#### 1 発育状態

(1) 全国平均体格との差 (表10、別表1)

##### ① 身長

男子、女子ともに、全ての年齢で全国平均値を上回っている。

##### ② 体重

男子は、13歳で全国平均値と同値、その他の年齢で全国平均値を上回っている。女子は、5歳から7歳及び11歳で全国平均と同値、10歳及び13歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。

表10 身長・体重の全国平均値との比較

区 分			身 長 (cm)			体 重 (kg)		
			石川県 A	全国 B	差 A-B	石川県 A	全国 B	差 A-B
男 子	幼稚園	5歳	110.6	110.3	0.3	19.0	18.9	0.1
		6歳	116.8	116.5	0.3	21.6	21.4	0.2
	小学校	7歳	123.2	122.5	0.7	24.3	24.1	0.2
		8歳	128.4	128.2	0.2	27.6	27.2	0.4
		9歳	134.1	133.5	0.6	31.1	30.5	0.6
		10歳	139.3	139.0	0.3	34.3	34.2	0.1
		11歳	145.4	145.0	0.4	38.9	38.2	0.7
	中学校	12歳	153.0	152.8	0.2	44.3	44.0	0.3
		13歳	160.6	160.0	0.6	49.0	49.0	-
		14歳	165.9	165.3	0.6	54.2	53.9	0.3
	高等学校	15歳	169.4	168.2	1.2	60.7	58.9	1.8
		16歳	170.7	169.9	0.8	61.4	60.6	0.8
		17歳	171.2	170.6	0.6	64.0	62.6	1.4
	女 子	幼稚園	5歳	109.7	109.3	0.4	18.5	18.5
6歳			116.1	115.7	0.4	21.0	21.0	-
小学校		7歳	122.0	121.5	0.5	23.5	23.5	-
		8歳	128.3	127.3	1.0	26.8	26.4	0.4
		9歳	133.9	133.4	0.5	30.1	29.9	0.2
		10歳	140.4	140.1	0.3	33.9	34.0	△0.1
		11歳	146.8	146.7	0.1	39.0	39.0	-
中学校		12歳	152.5	151.8	0.7	44.3	43.6	0.7
		13歳	155.2	154.9	0.3	47.0	47.2	△0.2
		14歳	157.1	156.5	0.6	50.1	50.0	0.1
高等学校		15歳	157.5	157.1	0.4	51.8	51.6	0.2
		16歳	158.0	157.6	0.4	53.1	52.6	0.5
		17歳	158.3	157.8	0.5	53.1	53.0	0.1

(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表11、別表5)

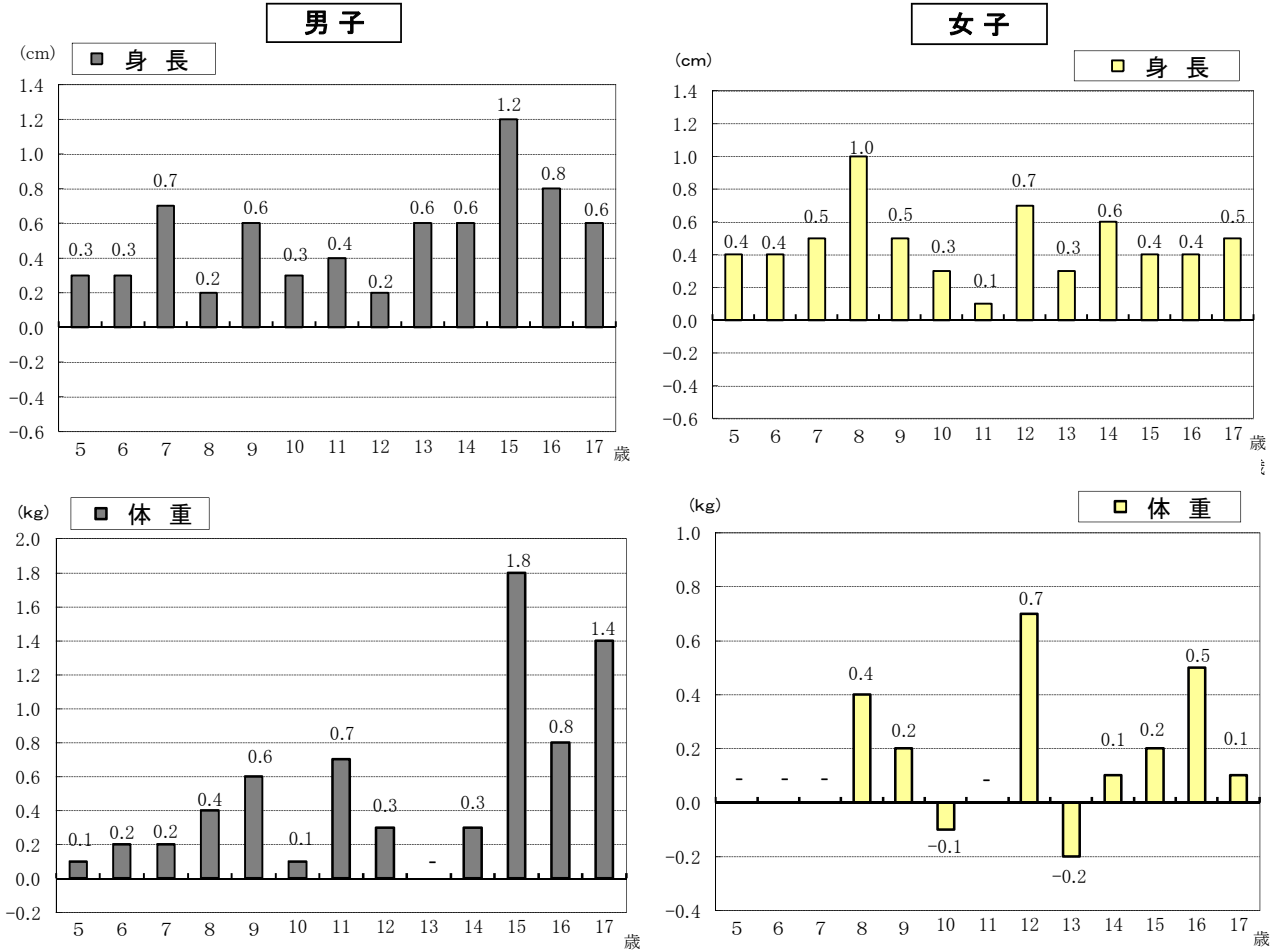
17歳(平成11年度生まれ)の総発育量を比較すると、男子は身長0.3cm、体重は1.6kg全国平均値を上回っている。女子は身長0.2cm、体重は0.3kg全国平均値を上回っている。

表11 総発育量の全国平均値との比較

区 分		男 子 (平成11年度生まれ)			女 子 (平成11年度生まれ)		
		5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A
身長 (cm)	石 川 県	111.0	171.2	60.2	110.2	158.3	48.1
	全 国	110.7	170.6	59.9	109.9	157.8	47.9
体重 (kg)	石 川 県	18.9	64.0	45.1	18.5	53.1	34.6
	全 国	19.1	62.6	43.5	18.7	53.0	34.3

図7 年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値 = 0.0)



(3) 17歳(高校3年生)の身長の全国平均値との比較 (図8、図9)

17歳の身長を全国値と比較すると、石川県は男子、女子ともに全国平均値を上回っている。

(4) 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表12)

平成29年度の肥満傾向児の出現率は、男子では15歳の15.17%、女子では12歳の9.22%が最も高く、反対に男子では5歳の2.43%、女子も5歳の2.45%が最も低い。

また、全国平均と比べると、男子は7歳から11歳、15歳及び17歳において、女子は12歳及び15歳において上回っている。

表12 肥満傾向児率の出現率の全国値との比較

単位：%

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
計	石川県	2.44	3.58	4.84	7.25	9.13	9.16	9.48	9.32	6.76	6.91	11.89	7.15	9.30
	全国	2.73	4.40	5.45	6.90	8.63	8.89	9.22	8.97	8.09	7.53	9.79	8.67	9.34
男	石川県	2.43	3.57	5.71	9.13	11.34	10.91	10.93	9.41	7.50	7.08	15.17	8.40	11.82
	全国	2.78	4.39	5.65	7.24	9.52	9.99	9.69	9.89	8.69	8.04	11.57	9.93	10.71
女	石川県	2.45	3.60	3.94	5.36	6.87	7.36	7.97	9.22	5.98	6.73	8.43	5.86	6.64
	全国	2.67	4.42	5.24	6.55	7.70	7.74	8.72	8.01	7.45	7.01	7.96	7.38	7.96

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。  
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

(5) 痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表13)

平成29年度の痩身傾向児の出現率は男子では11歳の3.21%、女子では12歳の4.90%が最も高く、反対に、男子では5歳及び7歳、女子では5歳で計数なしとなっている。

また、全国平均と比べると、男子では8歳、9歳、13歳、14歳及び16歳、女子は6歳から9歳、12歳から14歳及び17歳で全国平均値を上回っている。

表13 痩身傾向児率の出現率の全国値との比較

単位：%

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
計	石川県	-	0.47	0.35	1.13	2.26	1.79	2.87	3.42	3.47	2.68	2.12	2.02	2.47
	全国	0.31	0.55	0.57	1.01	1.71	2.55	2.90	3.64	2.95	2.39	2.63	2.18	1.89
男	石川県	-	0.18	-	0.97	2.59	2.14	3.21	1.97	2.72	2.56	2.69	2.90	1.68
	全国	0.33	0.47	0.53	0.95	1.57	2.66	3.27	2.96	2.25	2.05	3.00	2.49	2.08
女	石川県	-	0.79	0.70	1.30	1.93	1.44	2.52	4.90	4.27	2.82	1.52	1.12	3.30
	全国	0.29	0.64	0.61	1.07	1.86	2.43	2.52	4.36	3.69	2.74	2.24	1.87	1.69

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。  
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

図8 17歳男女平均値の推移

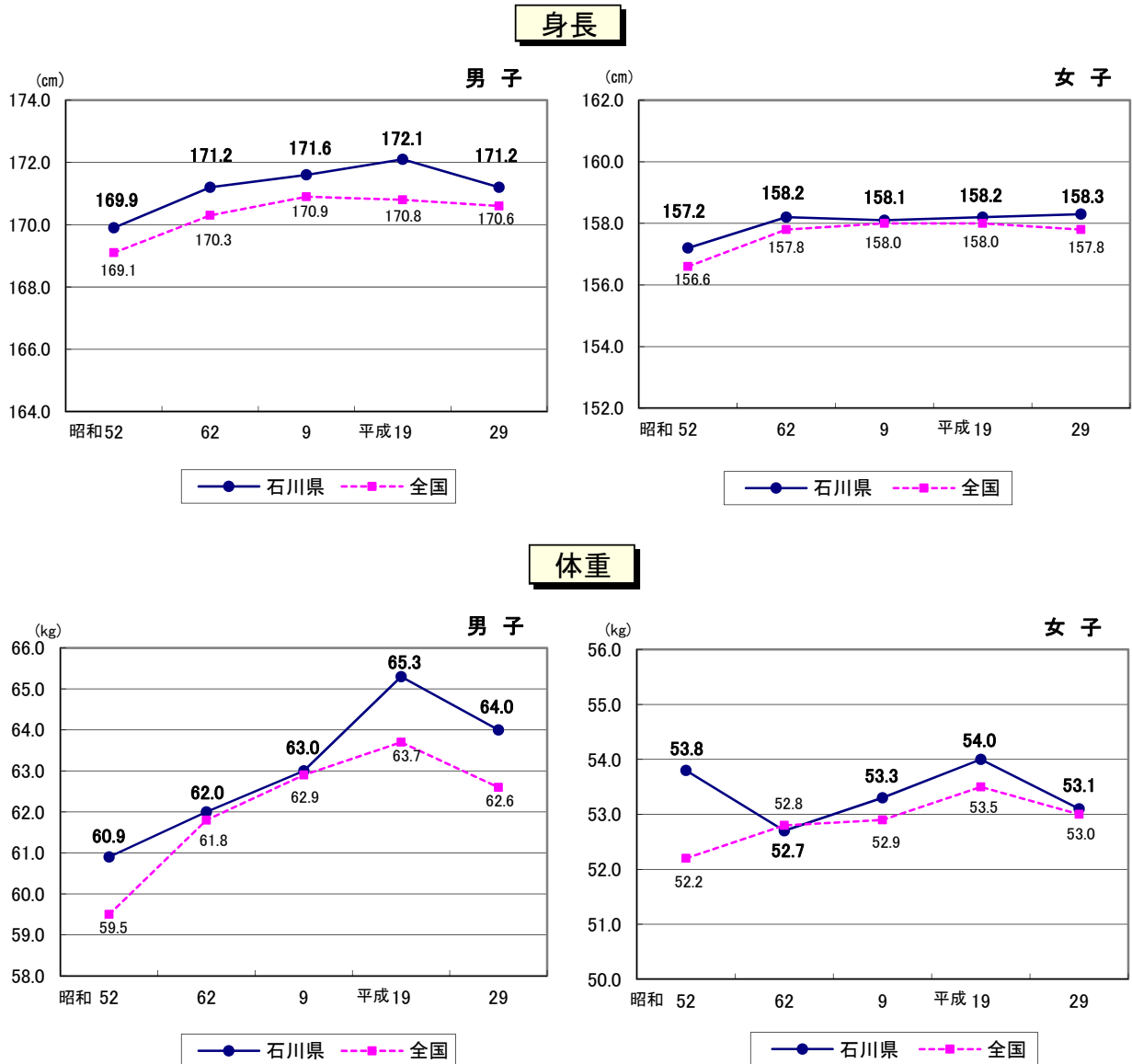
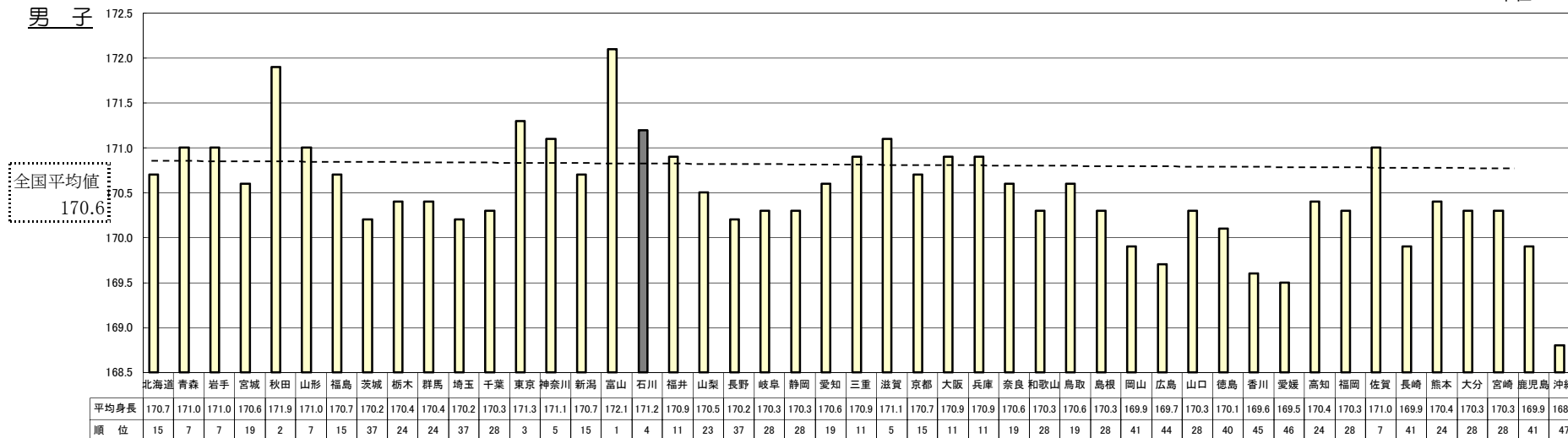


図9 都道府県別17歳の平均身長

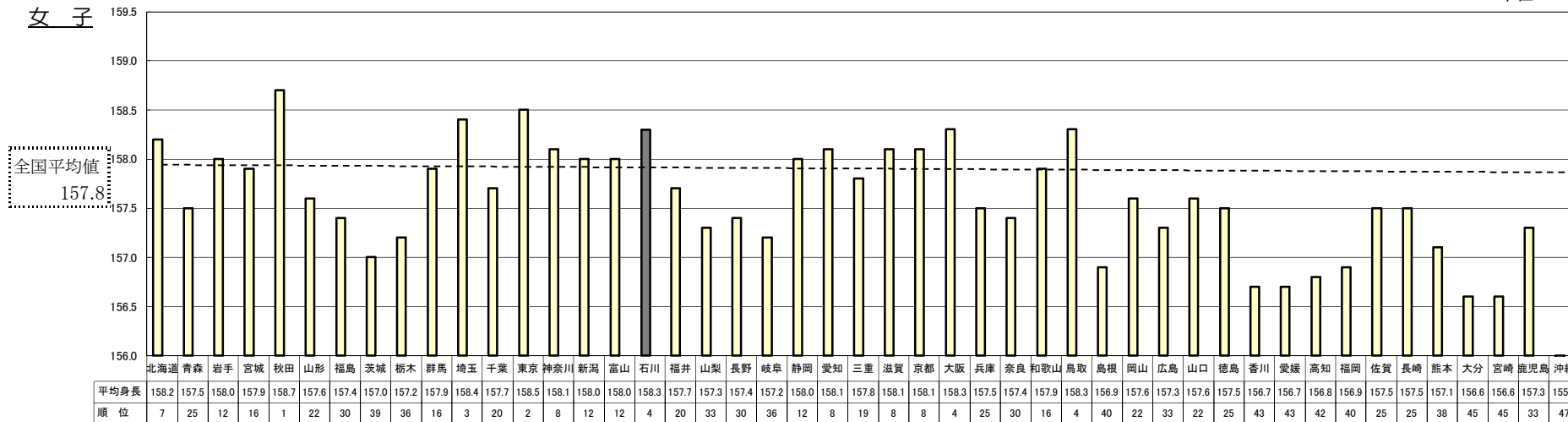
単位:cm

男子



女子

単位:cm



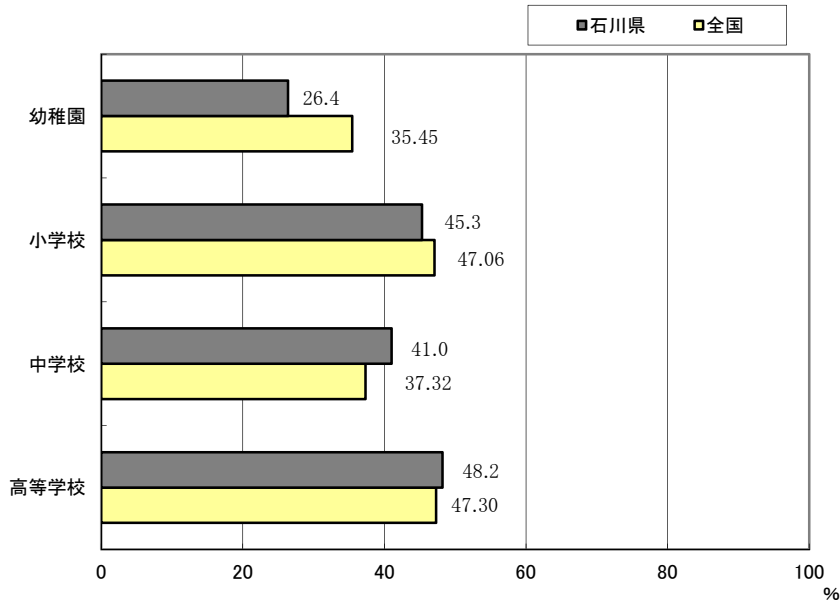
## 2 健康状態

○ 主な疾病・異常等の全国平均値との比較 (図10・11、別表3参照)

### (1) むし歯(う歯)の者の割合の全国平均値との比較

むし歯(う歯)の者の割合は、幼稚園で全国平均値を9.05ポイント、小学校では1.76ポイント下回っているが、中学校では3.68ポイント、高等学校では0.9ポイント全国平均値をそれぞれ上回っている。

図10 むし歯(う歯)の者の割合(全国平均値との比較)

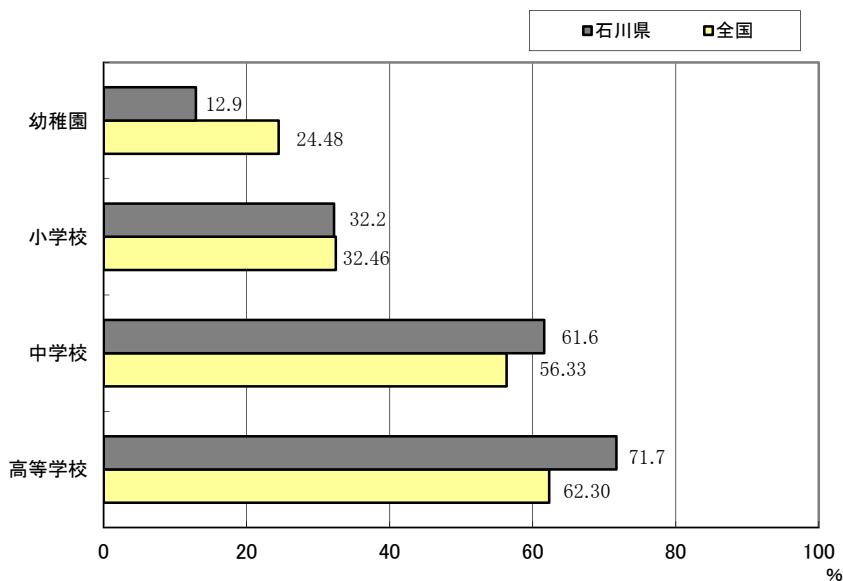


(注) 全国数値は小数第2位まで、石川県数値は小数第1位までを表記。

### (2) 裸眼視力1.0未満の者の割合の全国平均値との比較

裸眼視力1.0未満の者の割合は、幼稚園で11.58ポイント、小学校で0.26ポイント全国平均をそれぞれ下回っているが、中学校で5.27ポイント、高等学校で9.4ポイント全国平均値をそれぞれ上回っている。

図11 裸眼視力1.0未満の者の割合(全国平均値との比較)



(注) 全国数値は小数第2位まで、石川県数値は小数第1位までを表記。